



2020 年 6 月 15 日

J1・J2・J3 クラブ実行委員 様

浦和レッドダイヤモンドズ株式会社

実行委員 立花洋一

ファン・サポーターの横断幕に関するご提言

貴社いよいよご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、突然ではありますが、今後の日本サッカー界の在り方について、提言致したく、文書をお送りさせていただきました。

先日、長きに渡る議論を経て、「J リーグ 新型コロナウイルス感染症ガイドライン」において、無観客試合では全クラブ統一でファン・サポーターの横断幕掲出を禁止するというルールが発表されました。新型コロナウイルスの感染リスクが掲出禁止の理由となっております。先般の実行委員会で多くの時間を割き主張させて頂いた通り、浦和レッズとしては、この決定に対し「反対」であることを、改めてお伝えさせていただきます。せめて統一ルールではなく、各クラブ判断とすべきだと考えます。

無観客試合でのサポーター横断幕掲出禁止は、新型コロナウイルスの感染リスクが理由となっております。しかし、横断幕そのものの感染リスクは、既にガイドラインで掲出が認められているパートナー企業のバナー広告と何ら変わるものではないと考えています。もちろん、やはり認められている「段ボール」を用いた掲出物と比べて感染リスクが高いとは言い難いものです。また、掲出する行為においては、サポーターから直接受け取らない、掲出するまで 48 時間以上空ける（48 時間でウィルスは死滅する）など工夫をすることで最大限リスクを下げられると考えます。それにも関わらずサポーターの横断幕は禁止、バナーや広告、「段ボール」掲出は許可という決定は矛盾しており、納得することができません。

言うまでもなく、ファン・サポーターの存在はサッカー界にとって宝であり、選手がプレーするのは彼らのためであり、彼らの情熱こそがフットボールの魅力です。クラブとファン・サポーターは一緒に勝利を目指し、共に苦しみ、共に喜び、時には共に悲しむ。苦しい時には励まし合い、時には叱咤激励し合う。お互いにそんな存在であり、その先に掴んだ結果にこそ価値があり、真の喜びがあります。このような関係こそが真のフットボール文化であり、J リーグが目指してきた「あるべき姿」であると信じています。少なくともこれらは浦和レッズが目指すところです。

以上の観点から、浦和レッズとしましては、無観客試合においても一日でも早い再開を待ち望んでいたファン・サポーターの想いを背負うこと及びホームアドバンテージの一つとして、横断幕の掲出を許可するべきだということを訴え続けていく所存です。

コロナ禍で苦しい状況ではありますが、この難局を乗り越えるために力を合わせるとともに、ファン・サポーターの想いも背負って、一緒に歩んでいければと考えています。

以上